



JCHO 大阪病院看護部

クローバー通信 3号

2020年 11月

【看護専門外来】 **new**

これまで、ストーマ外来やフットケア外来は看護師が行う外来として行ってきましたが、内科療養指導外来の内容を整備し、リンパ浮腫外来、がん看護外来を加えて新たに看護外来として院内外に広報して活用していただけるように体制を整えました。看護専門外来の目的は「特定領域に専門的な知識・技術を持った看護師が、患者・家族の多様なニーズに対応するため、医師や多職種と共働して高度な看護技術を提供する。」ことで、目標は「患者・家族の生活に視点をおいてQOLを向上させること、疾病による症状をコントロールすること。」としています。看護外来の体制や内容等についての、患者さんからの問い合わせはくらしと医療の相談窓口で対応しています。是非ご活用ください。

ストーマ外来 皮膚排泄ケア認定看護師 清水加世子

2階外科外来奥の看護専門外来で開設しています。対象はオストメイトでコロストミーとイレオストミー、ウロストミーを持つ患者さんがおられます。難治性腸瘻を持つ方のケアや術後創傷処置を退院後も継続して行う方のケアも実践しています。昨年度ストーマを造設された方の28%が75歳以上の高齢者で、退院後にセルフケアを継続して練習する場合があります。ストーマを造設した後の生活で困ることがないようにサポートを継続していきたいと思っています。

看護専門外来毎に違った色のポスターを掲示しています。



外来で装具について説明しています



内科外来療養指導 特定行為研修修了者 寺岡真美

内科外来で、糖尿病患者さんに療養指導を行っております。フットケアでの足病変の予防や、仕事で忙しい世代で入院することが難しい患者さんのインスリン導入、妊娠糖尿病患者さんの教育、高齢患者さんの自己注射が継続して行えるような支援などを中心にしています。主にフットケアでは、患者さんの足の状態を調べ、日常生活から足のリスクが回避でき、足病変の予防行動を患者さん自身が取れるよう関わっています。当院にはフットケアチームがあり、患者さんの足の状況によっては他科受診へつなぎ、下肢の血流低下や足病変の早期治療につなげています。





透析療法説明外来 透析看護認定看護師 酒井圭子

2020年7月から内科療養指導の1つとして、透析療法説明外来を始めました。対象患者さんは、医師が近い将来、透析療法が必要と判断した方です。腎臓の代わりである治療（腎代替療法：血液透析・腹膜透析・腎移植）について、説明、情報提供、指導を行います。患者さんの生活状況や治療への思いを傾聴し、患者さんの意思を尊重した治療選択ができるように関わっていきたいと思っております。看護外来の実施者は、透析看護認定看護師および血液浄化センターのスタッフ看護師です。実施場所は、内科外来もしくは血液浄化センター内です。



皮膚科フットケア外来 副看護師長 森田玲子

皮膚科フットケア外来は足潰瘍、足趾・下肢切断既往、重度の血流障害で壊死に至り、強い足変形で胼胝形成を繰り返す等のハイリスク要因を有し、QOLが低下している患者さんを対象に、皮膚科医師とフットケア研修を修了した看護師が担当しています。視力低下等でケアが困難な患者さんが、繰り返し指導をすることにより行動変容が見られたときに看護のやりがいを感じます。様々な問題を抱えている患者さんを、フットケアチームでカンファレンスを行い、問題解決に向けて取り組んでいます。



リンパ浮腫外来 医療リンパドレナージセラピスト 西川紀子

リンパ浮腫は、がんの治療を受けたすべての患者さんが発症するわけではないのですが、一度発症すると完治は難しく、日常生活への影響やボディイメージの変化などの問題が生じ、身体面以外にも社会的、精神的サポートも必要です。リンパ浮腫外来では、乳腺内分泌外科に通院中の方を対象に、リンパ浮腫についての説明、日常生活についての注意点の指導、セルフケアの方法の指導、スキンケア、医療徒手リンパドレナージ、弾性圧迫衣の紹介や採寸、使用方法の指導、圧迫下での運動の指導などを行っています。まだ外来は立ち上げたばかりで試行錯誤の連続ですが、患者さんひとりひとりに合わせたケアや説明を行い、より良い日常生活がおくれるように支援していきたいと思います。



がん看護外来 がん看護専門看護師 志方優子

がん患者が生活を基盤にして治療を受けるためには外来通院中でも安心して治療できる環境づくりが不可欠です。しかし、短時間の医師による外来診察だけでは患者も家族も十分に思いを伝えることができないことが予測されます。そこで「外来通院中のがん患者とその家族が安心して治療や療養を送ることができるように支援する」を目的に医師と協働のもと、がん看護外来を開設しました。内容としては、患者・家族の心理的ケア、治療についての理解の促進、痛みなどの苦痛症状の評価とケア、療養場所・方法についての相談、多職種連携などを行っています。開設して間もないですが、患者・家族は本当に生活に根付いた困りごとを持っておられることを実感しています。「こんな外来があった。」という患者・家族からの反応もあり、ますますお役に立てる外来にしていきたいと奮起しております。

